

KIT虎ノ門大学院 学習支援計画書(シラバス)

※ 欠席・遅刻する場合は、事前相談/連絡を徹底してください。(連絡先: 虎ノ門事務室[メールまたは電話])  
※ 授業中の食事は控えてください。携帯電話はマナーモードにするなど、受講するにあたってのマナーをお守りください。

科 目 名		科目コード	単位数	開講期	講義形式
ビジネス分析要論		Z 200	1 単位	1 学期	ハイフレックス
Essentials of Business Analysis					
科 目 分 野		課 程 領 域			
経済学		ビジネスマネジメント専門科目			
担 当 教 員 名	メールアドレス		連絡方法 / オフィスアワー		
村 上   敏 也	-		メールにて随時		

関連している科目(履修推奨科目)		
ビジネス分析特論	オペレーションズマネジメント要論	ビジネスインテリジェンス特論
戦略思考要論	企業戦略要論	

授業の概要と到達目標

授業の主題と概要

成熟化がすすむ情報社会において、データ分析とチームワークで課題を解決する力は不可欠な素養となります。本科目では、生成AIを学びの伴走者として適切に活用しながら、統計や数学の基礎概念について直観的な理解を深めます。表計算ソフトや数式処理ツールを用いた探索的な演習を通じて、データの特性を記述する技能を修得します。また、実際のビジネス論文の読解を通じて、客観的なデータに基づき他者と意思疎通を図り、意思決定を改善するための実践的な態度を養います。

到達（修得）目標

経営の現場で定量的データを活用し、意思決定やコミュニケーションを改善するための実践的なリテラシーを修得することを目標とします。生成AIや統計ソフト等のテクノロジーを補助として使いこなし、統計および数学の基本知識について体験的な直観を磨きます。データの収集、加工、記述的分析のプロセスの土地勘を持つとともに、先行研究の分析結果から有益な知見を引き出す力を身につけます。さらに、相互に学び合う共同体の一員として、チームでの課題解決に貢献する態度を確立します。

受講対象者
定量的データをチームワークでの意思決定に活用したいと考える全受講生

履修上の注意事項やアドバイス

本講義は、これまで統計やデータ分析について、ほとんど知識・経験のない方を想定して、講義とケースメソッドまたは演習により授業が進めていきます。統計、数学、あるいは数字に不慣れであっても、積極的に質問や発言をして、各自が持参するノートPCで実際に自分の手を動かしてみようとする好奇心と行動力が参加者には強く期待されます。演習は、表計算ソフト(MS-Excel)の使用を予定しています。この科目では単に教わることは期待せず、教員を含む他の参加者から情報を引き出し、また自分の考えや情報を他の参加者に提供し、相互の学びに貢献するチームワークを大切にしてください。講義による受け身の授業ではありません。なお、実際の授業計画および演習課題の内容は履修者の関心や経歴に応じて変更することがあります。

※ 欠席が、2コマ(90分=1コマ)を超える場合は、単位修得にも影響する。欠席の際は、事前連絡を徹底すること。

※ 担当する教員は実務家教員とする。

※ 授業にて配布する資料等教材や講義収録映像・音声の無断転用・転載を禁じます。

コンピテンシ修得目標

知識領域（Y軸）		ヒューマンパワー（Z軸）		思考プロセス（X軸）	
Y1: 基盤法令・テクノロジー		Z1: 問題発見力	○	X1: 企画	
Y2: 応用法令・実務・テクノロジー		Z2: 独創力		X2: 構想	
Y3: グローバル法令・実務		Z3: 問題解決力	○	X3: 調査・分析	○
Y4: マネジメント	○	Z4: プレゼンテーション力	○	X4: 設計・開発	
Y5: 戦略立案	○	Z5: 変革推進力		X5: 変革	○
Y6: 標準化		Z6: コミュニケーション力	○	X6: 導入・運用	
		Z7: リーダーシップ力		X7: 評価・検証	○
		Z8: ネゴシエーション力		X8: リーガルマインド	
		Z9: オーナーシップ力		X9: ライフサイクル	

プラクティカム

イベント / ケース		教育技法	マテリアル / ツール
1	ツールによる計算力の補完	演習	講義資料
2	「統計学入門書の説明に慣れる」	グループワーク、クラス発表	当日配布資料
3	「質問づくりゲーム(相関係数)」	グループ討議、クラス討議	講義資料
4	確率分布を使ったシミュレーション	演習	シミュレーションソフト
5			
6			
7			

評 価 の 方 法		
(総合評価項目と割合)		評 価 の 要 点
クラス貢献(討議・ディスカッション)	70%	クラス貢献は、グループ討議、クラス討議における、発言内容の正誤ではなく、「参加者相互の学び」に貢献する発言・態度を評価します。各日の授業終了後に、個人ワーク、グループ討議、気づき・学び、自身のクラス貢献などをメモした、授業レポートを提出して頂きます。授業レポートは、A4一枚程度を想定しています。
授業レポート	30%	
合計	100%	

テキスト・参考図書など		備 考
※ 追加する場合を含め、一部変更となる場合もございますので予めご了承ください		
テキスト (購入が必要)	※適宜、講義資料を配布します	
参考図書 (購入は任意・講師推奨)	『Head First Statistics』ドーン・グリフィス、黒川利明・木下哲也ら訳(オライリージャパン) 『Head First データ解析』Michael Milton、大橋真也・木下哲也訳(オライリージャパン) 『直感的統計学』吉田耕作(日経BP社)	
参 考 URL		

コマ	学 習 内 容		事前準備・課題	担当者	時間
1.2	オリエンテーションとビジネス分析における統計学の役割の理解		表計算ソフトをご持参ください	村上	180分
	数理能力の補完とオンラインツールを用いた数式の処理方法		基礎的な統計用語について、入門書等を眺めてきてください		
	イベント	演習: ツールによる計算力の補完			
3.4	変数や数学記号の使い分けと関数によるデータ処理の基礎習得		データ分布の特性値やグラフについて、入門書やウェブ等で調べてきてください	村上	180分
	記述統計の関数操作とソフトウェアを用いたデータの可視化演習				
	イベント	グループワーク、クラス発表:「統計学入門書の説明に慣れる」(当日配布)			
5.6	先行研究の探索方法と統計的な分析結果の表を読み解く実践		配付資料を読んできてください	村上	180分
	正規分布の性質と統計的な手法によるビジネス仮説の検証		データ分布		
	イベント	グループ討議、クラス討議:「質問づくりゲーム(相関係数)」、クラス発表・討議			
7.8	相関関係と回帰モデルを用いたデータ間の関係性の分析		配付資料を読んできてください	村上	180分
	確率分布を用いたビジネスシミュレーションと学びの総括		配付資料を読んできてください		
	イベント	グループワークによる分析結果の共有、課題発見、解決策の提案、クラス発表・討議			

2026.01

※ 講義日程は、学事ポータルの講義日程表をご参照ください。

※ 学習内容、スケジュール、講義形式は、状況に応じて一部変更・改善が生じる場合があります。